

## あとがき

遺族会<sup>いぞくかい</sup>で発行された名簿<sup>めいぼ</sup>をひもといていると、戦死された方の顔写真<sup>がくどう</sup>に学童帽をかぶった幼い男の子の写<sup>の</sup>真<sup>の</sup>が載<sup>の</sup>っていました。13歳<sup>さい</sup>で学徒動員され、豊川海軍工廠<sup>こうしやう</sup>への空爆<sup>くうばく</sup>で亡<sup>な</sup>くなった一<sup>な</sup>鍬田<sup>すぐる</sup>の中西英<sup>すぐる</sup>さんでした。こんな幼い子まで、何と痛ましいことかと、戦争<sup>いく</sup>を憎<sup>にく</sup>まずにはいられない気持ちになりました。ご家族の方は、どれほどつらい思いをされたことでしょう。

終戦の日から65年が経ちました。戦争の時代を体験された方々は、徐々に減ってきています。65年前にあったこと、その真実を知らない大人が多くなり、聞いても理解できない子どもたちが増えています。これから生きる子どもたちや若い人たちに、戦争の悲惨<sup>ひさん</sup>さや平和の大切さを少しでも伝えなければならない。今、記録に残さなければ、永遠にうずもれてしまう記憶<sup>きおく</sup>、これを失ってはならない、そんな思いがこの記録集に込められています。八名学区に住んでみえる身近なおじいさんおばあさんの話だからこそ、きっと心に迫<sup>せま</sup>るものがあるはずです。私は話をまとめながら、何度も胸を詰<sup>むね</sup>まらせました。涙を抑えられなかった話もありました。悲しみ<sup>い</sup>、怒<sup>いか</sup>り、愛<sup>いと</sup>しさ、切<sup>い</sup>なさ……。どれもがやり場のない、ただ堪<sup>た</sup>え忍<sup>しの</sup>ぶしかない重い現実がありました。

この記録集を読んで、今の恵<sup>めぐ</sup>まれた生活が、過去の悲しみに支えられていることを理解し、平和の尊<sup>とうと</sup>さを感じてほしい。そして、学習に役立てることが、協力していただいた方々の思いに応えることになると考えてほしい。

八名学区には現在、70歳以上の方が960名あまりみえます。ここに掲載できた方は、学区のほんの一部の方に過ぎません。今なら、戦争時代の体験を話してくださる方がまだまだおみえになります。今なら、平和の尊さを学ぶ「生きた学習」ができるのです。その学習の扉を開く鍵を持っているのは、みなさんであり、みなさんの近くにみえるおじいさん、おばあさんなのです。

編集にあたって、ご協力いただいた学区の皆様、写真や資料の協力をいただいた関係各位、さらには、心温まるメッセージをいただいた中村メイコ様に深く感謝申し上げます。

平成23年1月吉日  
新城市立八名小学校長

安形 茂樹